

令和8年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育の概況	小麦の成熟期は平年より2～7日早くなった。収量、品質は平年並。赤かび病の発生はなかったが、なまぐさ黒穂病が平年よりやや多く見られた。作柄は「並」が見込まれる。
作業の進捗状況	調製

1 気象経過（前橋地方気象台データの平年比、※6月は20日まで、参考資料参照）

項目	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	※6月
平均気温	+0.4℃	+0.8℃	+0.2℃	+2.4℃	+1.9℃	+2.3℃	+1.7℃	-0.4℃
降水量	17%	38%	-%	51%	118%	110%	54%	125%
日照時間	111%	108%	113%	101%	105%	89%	124%	75%

2 生育概況

(1) 概要

播種は概ね順調であったが、遅れたほ場では乾燥の影響で出芽や初期生育が遅れた。11月中旬以降は少雨で生育が停滞したものの、2月下旬以降の降雨と高温により急速に回復し、4月も高温が続いたため、出穂期は各麦類とも平年より5日程度早まった。生育量は地域差があるものの、穂数、穂長及び穂重は平年並からやや下回る傾向がみられた。成熟期は二条大麦、六条大麦で平年より2～5日程度早く小麦では2～7日早まった。

収量は二条大麦及び六条大麦はおおむね平年並、小麦は地域差が見られたものの全体としては平年並であった。一部地域では登熟期の高温により細粒がやや多かった。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

病害では、なまぐさ黒穂病の発生が県内各地で確認され、一部地域では収穫の断念や荷受拒否が発生した。一方、赤かび病は発生が極めて少なく、大きな被害は認められなかった。その他、うどんこ病の発生は軽微であった。また、収穫時期の降雨と刈り遅れによる穂発芽の発生が懸念される。

(3) 作況は等の調査結果

作況は（さとのそら）のデータの平均は、播種期は11月21日（過去平均比+2日）、出穂期は4月11日（同-5日）、成熟期は5月31日（同-4日）、稈長は78cm（同98%）、穂長は8.7cm（同100%）、穂数は688本/m²（同94%）、収量は638kg/10a（同103%）となっている。（表1）

農業技術センターの生育基本調査結果（小麦「さとのそら」、11月14日播種）では、出穂期は4月13日（同-6日）、成熟期は5月30日（同-7日）、稈長は73cm（同-6.6cm）、穂長は9.0cm（同±0.0cm）、穂数は454本/m²（同90%）、収量は459kg/10a（同97%）であった。（表2）

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は、中部、伊勢崎、西部、東部が「並」、館林が「やや良」であり、県内の平均作柄は「並」が見込まれる。（表3）

表 1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地区	出穂期 月 日	成熟期 月 日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	収量 kg/10a	千粒重 g
平均	4/11(-5)	5/31(-4)	78 (98)	8.7(100)	688 (94)	638(103)	38.2(102)
前橋市	4/11(-6)	5/30(-7)	82 (100)	9.0(98)	890 (122)	710(104)	38.3(101)
伊勢崎市	4/10(-6)	6/2(-2)	66 (88)	7.9(97)	634 (103)	495(96)	37.8(100)
高崎市	4/12(-3)	5/28(-6)	71 (97)	8.3(102)	507 (80)	- (-)	- (-)
太田市	4/15(-)	5/31(-)	85 (-)	8.8 (-)	694 (-)	618(-)	38.0(-)
千代田町	4/13(-7)	6/3(-2)	91 (106)	9.5(102)	719 (76)	710(107)	38.5(107)

※各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)を示す。

日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市は過去 2 年、伊勢崎市は同 4 年、高崎市は同 6 年、太田市はほ場変更により過去値なし、千代田町は同 4 年の値。太田市は県平均から除外した。高崎市は収量及び千粒重は取りまとめ中のため県平均から除外した。

表 2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

播種期 月/日	節間伸長始期 月/日	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	収量 kg/10a	千粒重 g
11/14 (-1)	3/15 (-4)	4/13 (-6)	5/30 (-7)	73 (91)	9.0 (100)	454 (90)	459 (97)	-

※()内は過去 10 年の平均に対する日数および比率(%) 千粒重は取りまとめ中

表 3 農畜産課・地域農業課管内の麦類（小麦）の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並	並	並	並	並	やや良

3 技術対策

(1) 調製の徹底による良品質化

登熟中の高温の影響により細粒・未熟粒・硬質粒が見られることから流量等に留意するとともに、必要に応じて色彩選別機等を活用して丁寧に調製する。フルイ目はビール大麦が 2.5mm、六条大麦（食用）と小麦が 2.0mm を基準とし、必要に応じてフルイ目の調整を行う。乾燥仕上がり水分はビール大麦・六条大麦が 13%以下、小麦が 12.5%以下とする。

(2) 次年産小麦の技術対策

ア 特に排水不良田では、可能な限り暗きょや明きょを施工し、ほ場内の滞水防止を図るとともに、播種が遅れないよう計画的に作業を行う。

イ 深耕の実施や有機物の投入により保水性を高めるなど、土作りや適正な施肥を行い生育の健全化を図る。

ウ 適期播種に努め、早播は凍霜害を受ける危険性が高まるため行わない。

エ 規模拡大に伴い、作業の遅れや適正管理ができていないほ場が増加している。

経営規模に応じた機械装備と人員配置に配慮し、適期作業・適正管理を心がける。
オ 除草剤は播種後速やかに散布する。除草効果を高めるため、十分な碎土と鎮圧を行った上で処理する。春先に雑草が多い場合は草種に応じた除草剤を選択し、適期に散布する。イタリアンライグラス、カラスノエンドウ、カラスムギなどは体系処理等を行い、残草した場合は確実に抜き取りを行う。

カ 麦踏みは適正に行い、暖冬年は通常年より多めに実施する。

キ 近年、施肥量が不足している小麦ほ場が多く、枯れ熟れの発生要因にもなっている。品種に応じた施肥量を遵守するとともに、追肥は生育量に応じて必ず実施し、収量確保とタンパク質含量の安定を図る。

ク 種子消毒、赤かび病および雑草は適期・適切に防除を行う。

ケ ほ場において赤かび病、なまぐさ黒穂病、穂発芽の発生が認められた場合は、

健全麦への混入を回避するため別収穫とし、乾燥調製施設等への搬入は行わない。
 コ 適期収穫に努め、刈り遅れには十分注意する。成熟期後に長雨が予想される場合は、収穫可能なほ場では極力収穫をすませる。

【参考資料】

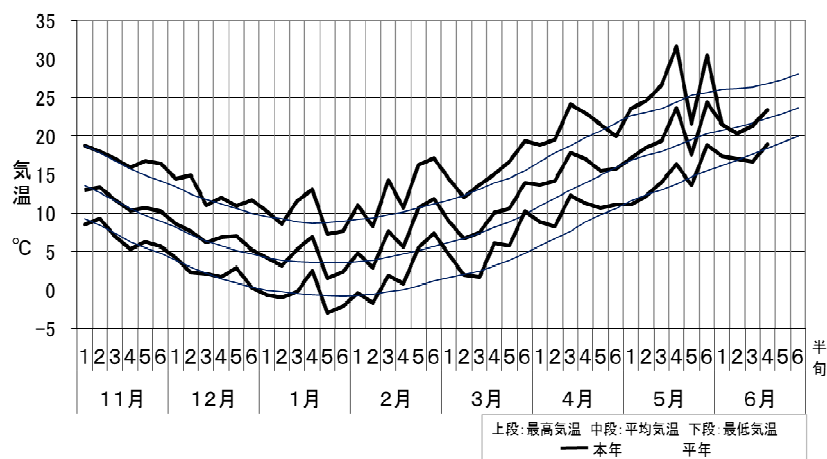


図 1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

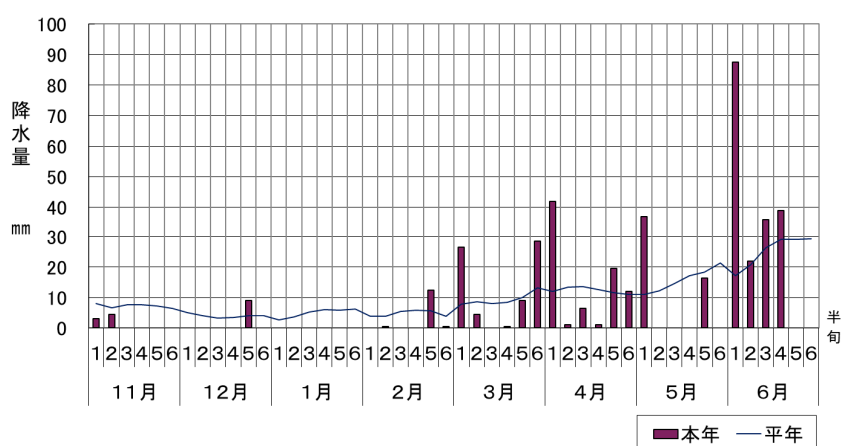


図 2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

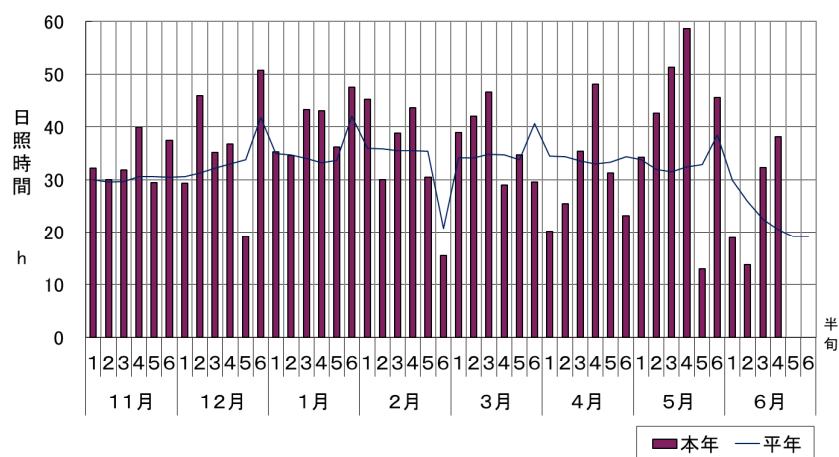


図 3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）